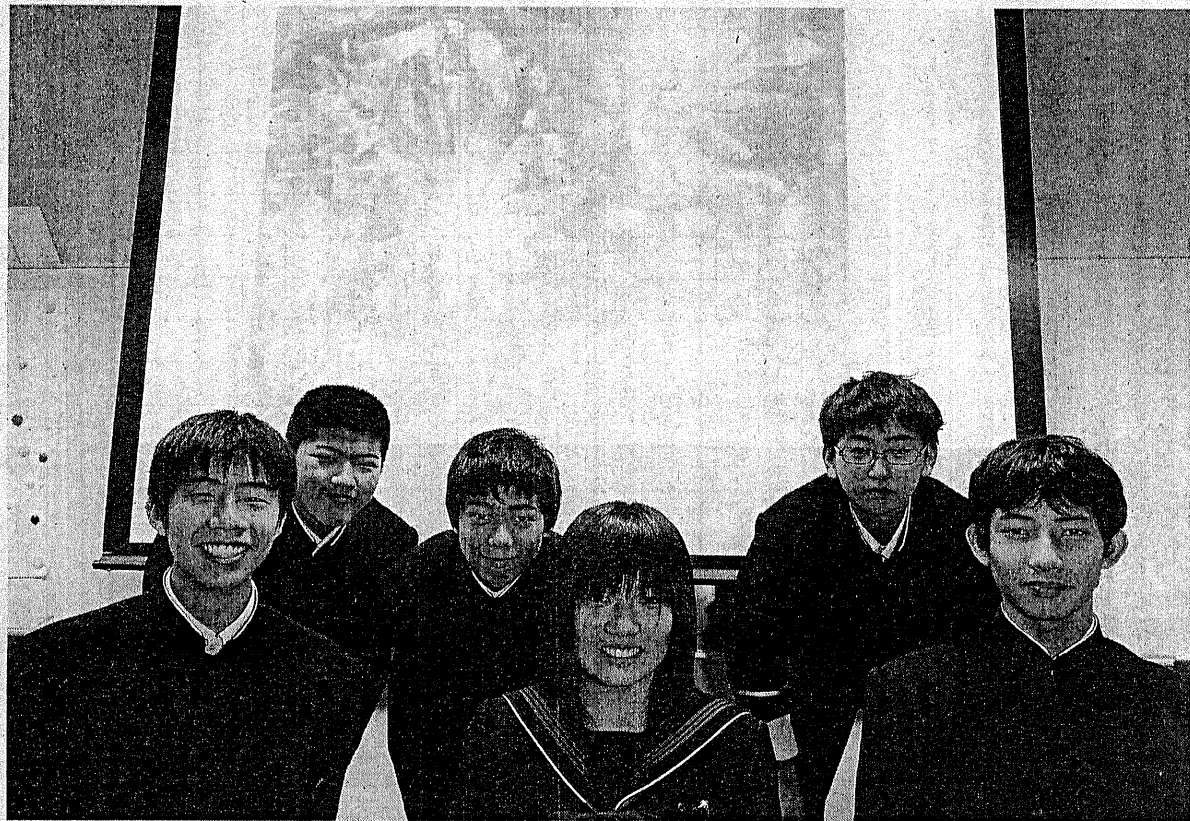


県議会議長賞 海南高ツメレンゲ班

ツメレンゲの研究～生育環境と分布

学生科学賞県代表作品

①



県立海南高「ツメレンゲ班」のメンバー

身近な希少種保護探る

多肉植物「ツメレンゲ」は各地に自生しているが、近年、数が減少し、環境省のレッドデータブックでは準絶滅危惧種に指定されている。

も3回ほど足を伸ばし、半日は以上かけて石垣の隙間に自生していないかを丹念に見て回った。

そんな植物を自宅のそばで見つけた橋本慎太郎さん(15)が「身近に生えている植物なのに希少種というのが面白い」と、高校の科学部のメンバー5人を誘って研究を始めた。

崖、雨どい、駐車場の脇……。ツメレンゲがありそうな場所は探った。書き込んだ調査用紙は数百枚に膨らみ、手分けして1か月以上かけてパソコンに入力した。メンバーは「集計が一番苦しかった。締め切りギリギリまで、時間に追われながらの作業だった」と振り返る。

今後は、1年間の定点観測でツメレンゲの生育の変化を調べる予定だ。

江戸時代に漆器の産地として栄え、今も古い町家が残る海南市黒江地区を週5日、1回約2時間かけて歩いて調査。パソコンで自作した記録用紙に個体数や大きさなどを記録した。夏休みには、和歌山市の和歌山城砂の丸広場に

黒江地区の民家では、瓦の下に土を敷き詰める「土葺き」の屋根に生育しているのを確認。コケのそばに自生している場所が多く、「生育に土は不可欠。さらにコケの水

また、和歌山城で、ツメレンゲを餌にする準絶滅危惧種の小型チョウ「クロツバメシジミ」を見つけ、その研究にも着手するという。

橋本さんは「希少種の保護につなげるために、生態をもっと明らかにしていきたい。2年連続の受賞を目指します」と意気込む。

メンバーは次のみなさん。

橋本慎太郎、植田瑛己、奥村真瀬、北野智大、山本恭平、宮崎楓加

黒江地区の民家では、瓦の下に土を敷き詰める「土葺き」の屋根に生育しているのを確認。コケのそばに自生している場所が多く、「生育に土は不可欠。さらにコケの水

橋本さんは「希少種の保護につなげるために、生態をもっと明らかにしていきたい。2年連続の受賞を目指します」と意気込む。

メンバーは次のみなさん。橋本慎太郎、植田瑛己、奥村真瀬、北野智大、山本恭平、宮崎楓加